

平成 24 年 1 月 17 日

報道関係者各位

東急リバブル株式会社

首都圏売買仲介店舗の営業車をハイブリッド車に切换え

東急リバブル株式会社（代表取締役社長：中島美博、本社：東京都渋谷区）は、地球温暖化防止対策の一環として、本年 2 月より営業で使用している車両を燃料の消費効率が高く、CO2 排出量を削減することができるハイブリッド車（トヨタ「プリウス」）に順次切替えることといたしましたのでお知らせいたします。

対象となる営業車は、首都圏で車両を使用している売買仲介店舗（85 店舗）の全車両（277 台）で、それぞれリース期間満了後、順次切替えを行い、平成 29 年 3 月までに営業車を全てハイブリット車に変更する予定です。この切替え完了時には全社営業車における CO2 排出量および車両燃料を現状比較で 34%削減できる見込みです。

東急グループでは、「美しい時代へー東急グループ」をスローガンに、「自然環境との融和をめざした経営を行う」というグループ理念のもと、事業活動における環境負荷低減への取り組みを積極的に進めております。当社におきましても以前から営業車を低公害車（トヨタ「カローラ」や日産「ティエダ・ラティオ」など）とし、環境問題に取り組んできましたが、今般、ハイブリット車（トヨタ「プリウス」）の導入を進めることで、更なる環境負荷低減に取り組んでまいります。

● 実際の導入効果について

ハイブリット車を導入することにより、CO2 排出量の低減による「地球温暖化の防止」、車両燃費向上による「化石燃料の省資源化」などの環境負荷低減につながります。具体的な導入効果（CO2 排出量および車両燃料使用量の削減量）は下表のとおりです。

なお、CO2 排出削減量を杉の木（50 年生）の CO2 吸収量に換算すると 16,928 本分に相当します。

	CO2 排出量(t-CO2/年)	車両燃料使用量(kℓ/年)
平成 22 年度 全社営業車の実績	691	380
ハイブリット車切替えによる削減量	237	130
削減率	34%	

※ 1. CO2 排出量は「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」の値(2.32kg-CO2/ℓ)に基づき算出。

※ 2. 杉の木の CO2 吸収量は、林野庁「森林・林業白書」の値(1本当たり約 14kg/年)に基づき算出。

以 上

—— 本件に関するお問合せ ——

東急リバブル株式会社

経営管理本部 経営企画部 広報 IR 課

櫻井・斉藤

TEL : 03-3463-3607